

日伯新聞

Caixa No. 375
Phone. 2-3926

本紙は、日本とブラジルとの友好関係を促進し、両国の経済文化の交流を助け、ブラジル人の日本に対する理解を深め、日本に対するブラジル人の関心を喚起することを目的として創設された。

本紙の発行所は、ブラジルのサンパウロ市にあり、日本とブラジルの両国で読者の多い新聞である。本紙は、毎日（日曜日は除く）発行され、内容は、日本とブラジルの両国のニュース、経済、文化、スポーツなどに関するものである。

本紙の発行所は、ブラジルのサンパウロ市にあり、日本とブラジルの両国で読者の多い新聞である。本紙は、毎日（日曜日は除く）発行され、内容は、日本とブラジルの両国のニュース、経済、文化、スポーツなどに関するものである。

本紙の発行所は、ブラジルのサンパウロ市にあり、日本とブラジルの両国で読者の多い新聞である。本紙は、毎日（日曜日は除く）発行され、内容は、日本とブラジルの両国のニュース、経済、文化、スポーツなどに関するものである。

本紙の発行所は、ブラジルのサンパウロ市にあり、日本とブラジルの両国で読者の多い新聞である。本紙は、毎日（日曜日は除く）発行され、内容は、日本とブラジルの両国のニュース、経済、文化、スポーツなどに関するものである。

本紙の発行所は、ブラジルのサンパウロ市にあり、日本とブラジルの両国で読者の多い新聞である。本紙は、毎日（日曜日は除く）発行され、内容は、日本とブラジルの両国のニュース、経済、文化、スポーツなどに関するものである。

本紙の発行所は、ブラジルのサンパウロ市にあり、日本とブラジルの両国で読者の多い新聞である。本紙は、毎日（日曜日は除く）発行され、内容は、日本とブラジルの両国のニュース、経済、文化、スポーツなどに関するものである。

本紙の発行所は、ブラジルのサンパウロ市にあり、日本とブラジルの両国で読者の多い新聞である。本紙は、毎日（日曜日は除く）発行され、内容は、日本とブラジルの両国のニュース、経済、文化、スポーツなどに関するものである。

反動期の犠牲 犬養首相の横死

暗殺に次ぐ暗殺を繰り返す
近代日本の世相は、暗殺の連続である。犬養毅首相の横死は、その典型である。犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。犬養毅は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養首相兇手に斃る 犯人は陸海軍士官十七名

内閣総辞職、園公参内

「東京特電」 内閣総辞職大臣犬養毅氏は十五日午後五時半頃首相官邸に於て兇漢の爲を撃たれ、頭部に重傷を負ひ翌十六日午前二時三十一分遂に逝去した。

右に付其後の東京電報並に諸新聞を綜合すると、十五日日曜日に警備の手薄なる中、陸軍五人、海軍五人、四名は自動車に乗つて首相官邸に突入し、犬養毅氏に襲撃した。犬養毅氏は、頭部に重傷を負ひ、翌十六日午前二時三十一分遂に逝去した。

犬養毅氏は、頭部に重傷を負ひ、翌十六日午前二時三十一分遂に逝去した。犬養毅氏は、頭部に重傷を負ひ、翌十六日午前二時三十一分遂に逝去した。

犬養毅氏は、頭部に重傷を負ひ、翌十六日午前二時三十一分遂に逝去した。犬養毅氏は、頭部に重傷を負ひ、翌十六日午前二時三十一分遂に逝去した。

犬養毅氏は、頭部に重傷を負ひ、翌十六日午前二時三十一分遂に逝去した。犬養毅氏は、頭部に重傷を負ひ、翌十六日午前二時三十一分遂に逝去した。

兇漢自首す 血盟團と連絡？

警官官舎を襲撃

厳戒

取引所立合中止

暴漢官廳を襲ふ

犬養毅首相の凶殺以来當局は萬一、警官官舎を襲撃するや内閣で直ちに緊急開議を要する旨の訓令を各官舎に下し、警官官舎に厳戒を要した。警官官舎に厳戒を要した。

犬養毅首相の凶殺以来當局は萬一、警官官舎を襲撃するや内閣で直ちに緊急開議を要する旨の訓令を各官舎に下し、警官官舎に厳戒を要した。警官官舎に厳戒を要した。

犬養毅首相の凶殺以来當局は萬一、警官官舎を襲撃するや内閣で直ちに緊急開議を要する旨の訓令を各官舎に下し、警官官舎に厳戒を要した。警官官舎に厳戒を要した。

犬養毅首相の凶殺以来當局は萬一、警官官舎を襲撃するや内閣で直ちに緊急開議を要する旨の訓令を各官舎に下し、警官官舎に厳戒を要した。警官官舎に厳戒を要した。

内閣総辞職 高橋氏臨時首相となる

犬養毅首相の横死後、内閣は総辞職した。高橋是清氏が臨時首相となった。高橋是清氏は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅首相の横死後、内閣は総辞職した。高橋是清氏が臨時首相となった。高橋是清氏は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

政友會新總裁に 鈴木氏を推戴

床次氏好機を失ふ

軍部政黨政治を排斥

舉國一致内閣か

軍部政黨政治を排斥

犬養毅首相の横死後、政友會は新總裁に鈴木貫太郎氏を推戴した。鈴木貫太郎氏は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅首相の横死後、政友會は新總裁に鈴木貫太郎氏を推戴した。鈴木貫太郎氏は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅首相の横死後、政友會は新總裁に鈴木貫太郎氏を推戴した。鈴木貫太郎氏は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅首相の横死後、政友會は新總裁に鈴木貫太郎氏を推戴した。鈴木貫太郎氏は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅首相の横死後、政友會は新總裁に鈴木貫太郎氏を推戴した。鈴木貫太郎氏は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

犬養毅首相の横死後、政友會は新總裁に鈴木貫太郎氏を推戴した。鈴木貫太郎氏は、日本の政治界に多大の影響を与えた人物である。彼の横死は、日本の政治界に大きな衝撃を与えた。

CASA TOZAN
MIZUKAMI & CIA.
COMMISSARIOS
PRAÇA MAUA, 25
Caixa Postal, 911 - Teleph. 2837 - End. Teleg. "TOZAN"
SANTOS

珈琲 コミサリ
カーザ東山
ミツカミ・イ・コンパニヤ
電話 セントラル 二八三七
電話 九一一一
TOZAN

確かでアテになる
ブロムベルグの
マキナ・農具・驅虫劑
御入用の方は
日伯社代理部
同リンス支局
（御申越下さい責任を以て迅速に御取次致します）

BANCO ESPECIE DE YOKOHAMA LTD.
(THE YOKOHAMA SPECIE BANK, LTD.)
Rua da Candelaria No. 23
CAIXA POSTAL, 380 - RIO DE JANEIRO
横濱正金銀行
リオ・デ・ジャネイロ支店
Estado de São Paulo
Estado de Rio de Janeiro
Estado de Minas Gerais
Estado de Pernambuco
Estado de Bahia
Estado de Ceará
Estado de Piauí
Estado de Maranhão
Estado de Pará
Estado de Amazonas
Estado de Acre
Estado de Roraima
Estado de Guayana Francesa
Estado de Guayana Britânica
Estado de Guayana Holandesa
Estado de Guayana Portuguesa
Estado de Guayana Española
Estado de Guayana Italiana
Estado de Guayana Alemana
Estado de Guayana Soviética
Estado de Guayana Unida

代議員選舉は來年五月

諸南リオクランデ問題の前途
 一切のモデルである、殊に南リオ
 格蘭デに於ては彼の七ヶ條條
 約を主張せる票より發表す
 ることと句を啗食する今日まで
 延引されて來たもので、一言
 にして之を評すれば臨時政府
 の施政を最も意義深いと見る
 爲に前政府の治績を罵倒し
 且つ現在國內は未だ全く平穩
 とあると

行きなやむ

去三月以來改進黨閣組織のため、
州政黨首腦部との間に折角折衝
を重ねてゐるトリード執政官の
發した宛變後の日本の國狀に對
し當地消息は左の通り見てゐる

化
か

獨紙評論

一變せん

【ロンドン十七日發】東京江中

國粹社會主義

と述べてゐる

國際都市に

芳澤外相の

陸軍省發表

五月十日陸軍省發表によれば
海派遺事に屬する第十四師團
滿洲に轉用せらるゝことと
遂次新任地に向ひつゝありと
聞翌十一日發表によれば今般

弔意を表す

大養育相兇變げうへん報ほうに接せつした

包

Malas
OSO
2-1319 S. P.

Fal
la Glor
聖市
グロ
ア街八

電話 二三二

NOTRE DAME DE S. PAULO

御婦人用ビスチード並
メシタル特儀提供
マントール・セーダ
マン・トール・セーダ
六五〇針より
六五〇針・四五〇針
聖母リベルグデ街
五八・六二

西田旅館

コンデ街二十一番
（中デ街二十一番）

廣 告
 サントス唯一の白塗家具店と大工工
 場を一緒又は別々にでも格安の値段
 で至急賣渡度し、御希望の方は金山
 迄御來談を
 サントス市フンジエル・バスナ街三十七番
 電話 一七九〇 (潮ホテルの眞前)

コレダ
健康の活路は!!
イー治療機

年産四十万キロ 堂々輸入商を駆逐した 聖州の養蠶業

ブラジル最大の養蠶産地として知られるサンパウロ市は、年産四十万キロの蠶糸を生産し、堂々と輸入商を駆逐した。この蠶糸は、主にヨーロッパ各国に輸出されている。サンパウロ市の養蠶業は、明治時代から盛んになり、現在では、市内の多くの家庭で養蠶が行われている。この蠶糸は、主にヨーロッパ各国に輸出されている。サンパウロ市の養蠶業は、明治時代から盛んになり、現在では、市内の多くの家庭で養蠶が行われている。

養蚕のブラジル社の調査によればキロ當概算左の通りである	
▽日本産生糸	五匁〇〇〇
サントス着値段	三匁〇〇〇
開税	三匁四〇〇
輸入業者手数料(二割)	二匁四〇〇
合計	二匁八〇〇
▽伊太利産生糸	四匁〇〇〇
サントス着値段	三匁〇〇〇
開税	三匁四〇〇
手数料一割	二匁〇〇〇
合計	一匁四〇〇
▽アメリカ型上絹糸	二匁三〇〇
サントス着値段	三匁〇〇〇
開税	三匁〇〇〇
合計	一匁三〇〇

SOC.
DO
Trav
Caixa

御照會之を切抜いて

NIPPAK SHIMBUN

Jornal Japonês de maior circulação no Brasil

Anno XVIII

São Paulo - Quinta-feira, 19 de Maio de 1932

Num. 781

NIPPAK SHIMBUN

Director-Proprietario:
SACK MIURA

Redactor da pagina brasileira: José Solé

Redacção, Administração e Officinas:
Rua da Liberdade, 144-A e 146
Caixa Postal, 375
Telephone 2-3926
Endereço Telegraphico: "Nippak"
SAO PAULO - Brasil

ASSIGNATURAS

Para o Brasil

Por anno 30\$000
Por semestre 16\$000
Numero avulso \$500
Para o Exterior
Por anno 60\$000

Anuncios

Temos á disposição dos interessados
uma tabella completa de preços para
anuncios nesta folha. Telephone 2-3926

EM TAIPAS

Inauguração de uma escola

Com a iniciativa do sr. J. Mizuka, e a cooperação da laboriosa colonia japonesa de Taipas, foi inaugurada, sabbado ultimo, pelos dignissimos representantes do Governo do Estado, Instrução Publica, e moradores daquella prospera Parada, uma Escola Publica Mixta. Dentro de pouco tempo será inaugurada uma segunda escola que funcionará no predio offerecido pela colonia japonesa daquella zona, que vem se desvellando patrioticamente pelo ensino infantil, e prosperidade da Parada Taipas.

Baptismo de japonezes

Já excedeu do milhar o numero de japonezes que tem recebido o baptismo na Igreja de S. Gonçalo, nesta capital, onde está installada a curia dos filhos do Sol Nascente, no curto periodo de tres annos.

A 14 horas de domingo p. p. receberam baptismo christão, naquella egreja, mais cincoenta e um japonez, entre adultos e menores, todos convertidos á religião pelo missionario revmo. padre Guido del Tóro, S. J.

DR. S. TAKAOKA

MEDICO - OPERADOR

Rua Cons. Furtado, 45
Tel. 2-4075

S. PAULO

O CONFLICTO SINO-JAPONEZ

Contra a retirada das tropas de Shanghai

Os membros da colonia japoneza radicados em Shanghai enviaram ao seu consul um vehemente protesto contra a ordem de retirada completa das tropas de seu paiz, conforme as ordens recebidas de Tokio.

Entendem os signatarios do protesto que ainda não estão restabelecidas as condições de segurança de que necessitam e que por isso, é indispensavel que aquellas tropas sejam mantidas, até que a situação volte a ser de facto segura e normal.

Um desmentido

A Agencia "Tass" declarou, que a informação publicada pelo "New York Times", segundo a qual a Russia pretendia concentrar 250.000 homens na Siberia Oriental, era inteiramente destituída de fundamentos. A mesma Agencia assevera que o governo dos Soviets se sentia com firmeza na politica de paz com o Japão e com a Mandchuria.

Noticias e telegrammas do Japão

(Serviço especial do NIPPAK SHIMBUN e dos jornaes)

Uma proposta que visa fazer Shanghai cidade livre

TOKIO, 14 - O ministro dos Negocios Estrangeiros, sr. Yoshisawa, convocou, hontem á noite, na sede do seu ministerio, os embaixadores da Inglaterra, França, Italia e Estados Unidos, afim de explicar-lhes as circunstancias em virtude das quaes o Japão resolveu retirar de Shanghai o corpo expedicionario nipponico. A reunião visa, igualmente, apressar a abertura da conferencia geral encarregada de garantir a segurança permanente de Shanghai, de accordo com a resolução da Sociedade das Nações.

O sr. Yoshisawa pediu aos representantes das grandes potencias que communicassem oficialmente aos respectivos governos a decisão japonesa relativa á retirada das tropas.

O "Nichi-Nichi-Shimbun" disse seguramente informado de que a chancellaria nipponica tencionava entabular negociações preliminares, assim que receber a resposta das potencias ás propostas japonezas. Estas seriam transformadas em Shanghai numa cidade livre internacional, situada numa zona desmilitarizada.

O "Dia do opprobrio nacional" na China

Como quasi todos os annos acontece o anniversario da assinatura do chamado "tratado das 21 reclamações" foi celebrado em Pekim, com uma demonstração, no decurso da qual cerca de 500 estudantes atacaram e saquearam a sede do "Kuomintang", rasgando diversas bandeiras e emblemas nacionalistas.

Como se sabe, as clausulas do tratado em questão apresentadas pelo Japão á China, nos meados da guerra, foram acceitas por Yuan-Che-Kai depois do ultimatum japonês de 7 de Maio de 1915. Essa data foi declarada pelos chinezes "Dia do opprobrio nacional".

A opposição predominante nos meios chinezes era, effectivamente, a de que as 21 reclamações do tratado submetiam, praticamente a China inteira ao poderio do Japão. Este teve de renunciar ás mesmas na conferencia de Washington de 1921, que assegurou a independencia politica da China.

A chegada de "Carlito" a Tokio causou enormes disturbios

Tokio, 14 - Procedente de Kobe, chegou hoje á esta cidade o popular actor cinematographico Charles Chaplin, que teve uma recepção verdadeiramente estrondosa e movimentada.

Uma enorme multidão se acotovelava na estação ferroviaria e nas suas imediações quando Carlito desembarcou, cercado de numerosos policias.

A multidão ansiosa por ver bem de perto o conhecido artista, entregou-se a excessos lamentaveis, tentando romper os cordões de isolamento, sendo entretanto contida pela policia.

Por occasião dessas desordens, varias casas commerciaes das proximidades da estação sofreram alguns prejuizos, tendo sido partidos os vidros de algumas vitrinas.

Grave attentado!

Mais um chefe de governo que cahe inerte no scenario da politica

O sr. Inukai assassinado

Gravissimos são os acontecimentos que se desenrolam no scenario politico de Tokio.

Em curto espaço de tempo altos proceres do governo tem desaparecido tragicamente uns atraz de outros e, ainda agora, a chamma terrorista acaba de eliminar brutalmente o Presidente do actual governo, sr. Inukai, chefe do partido "Seiyukai".

S. excia, que era um dos mais altos esteios da politica japoneza, foi surpreendido em seu gabinete de trabalho pelos assassinos que o feriram varias vezes a tiro. Promptamente soccorrido ainda teve alguns instantes de vida, vindo a fallecer ás 2 horas e 20 minutos, do dia 16 do corrente, tendo sido baldados os esforços dos medicos para salvá-lo.

Ao correr a infausta noticia do fallecimento do chefe do governo, os membros do gabinete dirigiram-se ao palacio imperial, onde apresentaram a sua demissão collectiva, ao imperador Hirohito, que lhes pediu continuassem no poder até normalizar a situação.

Como se deu o facto

Segundo o depoimento de testemunhas oculares, o sr. Inukai enfrentou com grande coragem o grupo de jovens militares que assaltou a sua residencia. Insistentemente solicitado a fugir pelas pessoas que o rodeavam, quando os terroristas forçaram a entrada em sua casa, o chefe do governo não só se recusou a deixar a sala em que se encontrava, como ainda avançou em direcção á porta quando a mesma foi aberta pelos aggressores, exclamando: "Atirem si têm coragem!"

Os officiaes atiraram 9 vezes. O sr. Inukai cahiu com o rosto ensanguentado.

Sahiram tambem feridos quatro agentes de policia, uma criada, e varios jornalistas.

Tudo leva a crer que o attentado tinha sido estudado previamente.

Os criminosos

O criminoso foi um individuo fardado, que deu dois tiros contra o chefe do governo, o qual foi atingido na fronte e no nariz.

O facto ocorreu ás 17 horas e 30 na residencia official do primeiro ministro, que no momento estava em conferencia com um visitante.

O criminoso entregou-se á policia. Tambem apresentaram-se a prisão cinco officiaes de Marinha e onze cadetes do Exército, que dizem-se responsaveis pelo assassinato.

Outro attentado

Na mesma occasião que se desenrolava o gravissimo facto na residencia do ministro Inukai um individuo penetrou no domicilio do ex-tenente Nishida, que esteve preso por occasião do assassinato do barão T. Dan, e atirou contra aquelle official. Suppõe-se que Nishida pertença á Associação Fraternidade do Sangue, descoberta logo depois do assassinato de T. Dan.

O sr. Inukai estava já condemnado

Depois de occorrida a tragedia foi lembrado que o nome do primeiro ministro figurava na lista das victimas organizada pela sociedade secreta "Fraternidade do Sangue" e da qual constava igualmente os nomes do principe Sai-onji, do barão Wakatsuki, do barão Sidehara e de certo numero de outras personalidades financeiras e industriaes.

Ignorava-se ainda si a "Fraternidade do Sangue" está ligada á associação dos jovens officiaes de Marinha e do Exército, á qual é attribuido o attentado de hoje.

O novo chefe do partido Seiyukai

Foi nomeado para o cargo de Presidente do Partido Seiyukai o sr. Kisaburo Suzuki, que deverá tomar posse amanhã, 20 do corrente.

Tambem foi nomeado o sr. Jin-saburo Masaki para o cargo de Ministro de Guerra.

Pesames

O ministro das Relações Exteriores do Brasil apresentou os pesames da nação brasileira, á embaixada do Japão no Rio de Janeiro, pelo infausto acontecimento.

Estiveram no Consulado do Japão, nesta capital, onde apresentaram condolencias pelos acontecimentos de Tokio, os representantes dos exmos. snrs. Interventor, e secretarios da Fazenda e Justiça de São Paulo.

Seis bombas atiradas na cidade

TOKIO, 15 - Precisamente na mesma hora em que o chefe do governo era assassinado em sua residencia, um grupo de jovens militares atirava seis bombas contra diversos edificios da cidade. Dessas bombas, quatro foram lançadas de um automovel ás portas da sede central do Partido Seiyukai, da repartição geral de policia e da residencia do ministro do sello privado.

Foram egualmente disparados oito tiros contra o posto central da Policia. Ficaram feridos um jornalista e um policial.

A quinta bomba foi lançada na entrada do Banco do Japão e a sexta contra outro estabelecimento de credito.

Os terroristas distribuíram avulsos pela cidade, nos quaes denunciavam "o estado actual dos partidos politicos e a conducta dos funcionarios diplomaticos, dos Bancos, do Exército e da Marinha".

Os avulsos eram assignados pelos membros da associação dos jovens officiaes do Exército e da Marinha.

Projecto de um vôo trans-Pacifico

O aviador norte-americano Bromley solicitou autorização ao Ministerio da Aviação para voar sobre o territorio japonês, por occasião da tentativa de travessia do Pacifico, que vae iniciar. Bromley, que pretende partir de Seattle, já havia tentado, sem exito, essa travessia em 1930.

O inicio do seu vôo está marcado para amanhã, 20 do corrente.

NOTAS AGRICOLAS

A cultura do feijão "Mata-Matto" como cobertura

Pelo Engenheiro Agronomo Katsuhiko Miyaji

Procurando incentivar, cada vez mais, a agricultura em terras brasileiras, os peritos japonezes estudam e ensaiam constantemente novas especies de plantas, legumes e cereaes, procurando sempre crear um producto apresentavel e de optima qualidade que venha beneficiar não só aos agricultores japonezes mas sim a todos em geral.

Um desses esforçados pioneiros da agricultura, o sr. Katsuhiko Miyaji, engenheiro agronomo, está tratando de introduzir em nossa lavoura a planta denominada "feijão mata-matto", que segundo a descripção abaixo é de uma utilidade sem igual.

«Antes de entrarmos em detalhes, devemos fazer ligeiras considerações acerca das plantas de cobertura. Ha duas especies de plantas de cobertura: enquanto uma se destina a proporci nar sombra, tal como as usadas na cultura do chá, café, etc., nos paizes quentes, onde o calor solar é intenso, afim de diminuir-o, a outra é uma planta leguminosa que, cultivada nas ruas da cultura principal, evita o crescimento do matto e o deslocamento da terra, cobrindo-a convenientemente. São, portanto, duas especies completamente diferentes que não admittem confusão. A planta a que vou me referir é justamente a ultima, que é denominada "cover crop" em inglez.

O fim da cultura dessa especie de plantas, em paizes quentes, é para evitar que a chuva carregue da superficie do solo, a terra arada, o melhoramento physiologico desta, e defender contra o crescimento do matto e ao mesmo tempo amenizando na época da secca ou flagello de secca, prestando-se tambem para produção de adubos verdes os quaes são os principais elementos para a fertilidade do solo. Essas plantas são leguminosas, tendo sido descobertas na Oceania, varias especies destas, que são communmente cultivadas naquella região. Eis algumas dessas plantas:

Sarawak Bean (Dolichos Hosi, syn; Vigna Oligosperma); Butterfly Pea (Centrosema Plumieri); Centrosema pubescens; Giant Mimosa (Mimosa invisa); Boga Medeloa (Tephrosia Candida); Calopogonium Mucunoides.

Não obstante existirem tantas qualidades de leguminosas destinadas para abertura do solo, nenhuma offerece tanta vantagem quanto o "feijão mata-matto", que actualmente, é a rainha das plantas de cobertura.

O "feijão mata-matto", chamado em inglez "Sarawak bean", tem por origem a ilha de Bornéo, Reinado de Sarawak, e tem os seguintes nomes scientificos: Dolichos Hosi, syn; Vigna oligosperma, sendo tambem chamado, frequentemente, "Vigna". É uma planta muito empregada nas culturas da borracha e de côco, das regiões oceanicas.

O "feijão mata-matto" é uma pequena planta leguminosa multi-annual. As experiencias levadas a effecto no Brasil, sobre a cultura dessa planta, deram resultados satisfatorios.

O formidavel crescimento da mesma neste paiz revela que tanto o solo como o clima brasileiro se prestam maravilhosamente a essa planta, que resiste perfeitamente á secca e ao frio, razão porque nas zonas de geadas ella cresce e vive perfeitamente. No momento é difficil descobrir uma planta mais apropriada do que esta para o fim a que se destina.

No intuito de diffundir o "feijão mata-matto" no Brasil, vamos mencionar, em seguida, detalhadamente, as vantagens desta planta:

1.a - Sendo cultivado nos cafezais, pomares e amoreiras situados em terreno inclinado, augmenta a nutrição das arvores, evita a queda e prorroga a vida das mesmas e tambem evita que a terra arada seja carregada pela chuva;

2.a - Impede o crescimento do matto, razão por que economiza as despesas com as carpas;

3.a - Faz melhoramento do solo, quando cultivado em terras fraccas ou apedreguadas, offerecendo permanentemente e com abundancia, humos;

4.a - Facilita a respiração das plantas conservando o solo sempre fôfo, além de augmentar o poder retentivo dagua na terra, o que muito concorre para amenizar a secca;

5.a - Por ser leguminosa, evita o enfraquecimento de solo, augmentando o azoto, devido ao movimento das bacterias nitrophylicas contidas nas raizes;

6.a - Crescido, pôde ser cortado e applicado como adubo verde;

O outro ponto que merece especial attenção é de que o "feijão mata-matto" é um excellente alimento para o gado. No Brasil ha muita falta de boas plantas leguminosas para alimentação do gado, sendo esta substituida, actualmente, pelas plantas gramineas, alimentação essa incompleta, tornando-se prejudicial ao desenvolvimento normal dos animaes. Nease particular, o "feijão mata-matto" pôde ser cultivado conjuntamente com as plantas gramineas, da mesma maneira como nas pastagens das regiões quentes se cultiva conjuntamente as luzernas com as plantas gramineas, formando excellente pastagem.

Com a introdução desta leguminosa fica preenchida completamente a lacuna existente na industria animal brasileira, que tomará novo rumo.

VISÕES DE POETA

Jaz, no Thalamo, alegre, a formosa donzella
que o poeta compoz... E, cerrando a cortina
de seu thalamo antigo á visão mais supina,
Ella arpeja a canção que o mutismo atropella...

Ella emperla-se... A luz quasi morta da vela,
vaga o aceno de amor que ella faz á campina...
O mutismo aqui dentro... E la fora a neblina!...
Vendo um sonho de amor, ella fecha a janella...

Ella despe-se... O espelho albanes, feito artista
divinal, scisma. Dorme a noite... Pondo á vista
desse espelho albanes toda a fôrma secreta,

Ella atira-se, enfim, sobre o thalamo antigo...
E, pensando no amor de seu jovem amigo,
Ella fecha a cortina ás visões de poeta...

Ruy Ribeiro

Bandeirantes-Paraná, 6-5-932